

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2003年11月28日

39号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

11・20 地鎮祭が行われ

来春3月へ向けて建設工事を開始

時折吹く微風が心地よく感じられるような、よく晴れた暖かい小春日和でした。

これまでいろいろな手続きや調整に当たって来た人たちは、ホッとした顔がかがやき、これから建築工事にかかる人はすこし緊張気味な表情で、入居するメンバーや親たちも参加して2館目グループホームの地鎮祭が行われました。入居者の宏君や健市君たちは首を振りながらほんとにうれしそうにニコニコと・・・

(お散歩の好きなメンバーさん、お天気がよくてよかったですね！)

建設予定地に小さなテントと紅白の幕が張られ、四隅に若竹がサヤサヤと立てられた中に、小さな祭壇がもうけられていました。地面には鍬入れのための土が形よく円錐形にもられています。神主さんの厳かな祝詞が朗々と聞こえる中、ときどきメンバーの歓喜の声(?)が・・・

これでいよいよ、建設工事がはじまります。来春3月には、シックなグリーンの屋根の家が出来上がる予定です。

お知らせ

前号でお知らせした第2回総会の日程が変更になりました。

お繰り合わせの上おでかけください。

期日： 12月3日 (水) 10時30分より

会場：活動ホーム「しもだ」 (変更なし)

議題：2館目グループホームの進捗状況について

今後の活動について

その他



病気を乗り越えて

小栗由美子

生まれてから半世紀以上、病気らしい病気もしなかった私が今年は青天の霹靂で壊れてしまいました。

お医者様が深刻な顔をするほどには本人はめげていなかったのですが、厄介な病気を背負い込んでしまった事には変わりなく、とにかくここは腰を落ち着けて養生するより仕方ないと思いました。たくさんの人たちに迷惑と心配をかけることになるのが一番気がかりでしたが、皆さんの「ゆっくり休んで良くなって下さい」という言葉に甘えて覚悟を決めました。たくさんの皆さんの思いが、暖かい励ましとなって、私の大きな勇気になりました。お医者様もびっくりするほど治療もうまくいって元気になりました。

長い入院と治療になり、生まれて初めてのいろいろな経験をしました。自分の力では立てなかつたり、歩けなかつたり、車椅子の生活も経験しました。街の中や、ビルの中で車椅子の不便さを実感しました。親切な人に感謝し、無神経な人に悲しい思いもしました。まだ治療は少し残っていますが、来年の春には終わります。

病気に負けないように、病気と仲良くしながら（出来れば乗り越えて）今年体験したことを忘れずに、元気になれた事に感謝をしてこれからの生活をしたいと思っています。



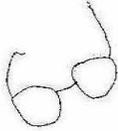
温かい雰囲気の中で仲良く

神代 孝子

夜7時過ぎよつばホームを訪ねました。チャイムを鳴らすと中から”どうぞ”と言う返事が。普通のお宅のようでほっとしました。ドアを開けるとそこにはいつもの、さっちゃん笑顔があつて、勢津子さんもにっこりと迎えてくれました。会長〔藤田さん〕、美奈ちゃんはまだ食事中、次郎さんは恥ずかしいのか、布団の中で顔にタオルをかけて寝ていました。グループホームができてすぐに、次郎さんが私に話しかけてくれたのです。

”よつばホームに来て”と。私は”今度行くわね”と言いながらもう2年も経ってしまったのです。次郎さんが来て、来てといていた意味が着いてすぐに分かりました。よつばホームが素晴らしいので見せたかったのですね、次郎さん。本当に温かい雰囲気、仲良しが暮らしているって言う感じがしました。間取りも上手く配置されていて機能性に富み、尚且つそれぞれの個性豊かなお部屋の使い方に感心してしまいました。お仕着せではなく自分達で作ると言うのはこういう事なのですね。改めて関係者の方に頭が下がります。欲を言えば、一人一人トイレがあつてもいいのにと思いました。がすぐに気が付いたのです。私はやっぱり施設をイメージしていたのだと。普通家庭でもトイレは一つ（2階にもう一つという家もありますが）ですね。4人が家族なのだからこれでいいのだと考えなおしました。

最近は年寄りの部屋にトイレをという考えも出てきていると聞きます。まんざら間違った贅沢な発想でもないのかもしれませんが。本当にステキなグループホーム誕生です。巷では器は作れど魂入らずなんて悲しい話を聞きます。よつばホームは建物は勿論、素晴らしい家を作れて本当に良かった、凄い！嬉しいで一す。今度はボランティアでなにかさせてもらおうと心に決めて帰りました。突然の訪問なのにいつもと変わらず受け入れてくれて本当に有難う！。又必ず行くからね、勢津子さん、サツちゃん、藤田君、次郎さん！



めがねのこえ

この前 衆議院議員の選挙がありました。私は いつも会場になる 元の青少年の家へ投票に行きました。

そこは 階段が 少しあります。いつも 係りの人がまっいて 私が行くと 何人かで車椅子を持って下してくれます。そして 車イスを 押して障害者用の 低い机の前まで連れていってくれました。

順序にしたがって 「今度は個人です」とか次は「政党」ですとか教えてくれます。

いつも 私の担当の民生委員さんや知り合いの方たちが、3~4 人づつならんですわって会場を見まもっています 「あつ、いらしたわ」とか「ごくろうさま」とか ニコニコして迎えてくれます。

また 待っていてくれる(?)のだなと思うと、「這ってでもいかなきゃね！」などと大笑いしながら出かけるのです。

たまたま 今度は 投票箱に 用紙がなかなか入れられなくて困りました。用紙がシワになるとなおさら細い口からはいりません。係りの人が箱を持ち上げて入れやすくかたむけてくれたり、大さわぎでした。

やっと 入れたら、「出来たー！」という感じで 皆ホッと力が抜けたのがわかりました。こんな思いをして 誰に投票したのかな.....と思うのでしょうか？

* * *

今は 外に出られない人のために 家に来てもらって投票することもできるそうです。

ある施設の職員が、障害者たちに投票させたい人を教えて むりに投票させたというニュースを聞きましたが、ちょっといやな話でした。

大原 友子

〒

ご入会・ご継続ありがとうございます。(敬称略)《賛助会員》

有馬 成子

平成 15 年 11 月 25 日現在

今月のよつばホーム

初めまして。10月より非常勤職員として働かせて頂いております、
尾崎 愛（おざき あい）と申します。

幼い頃から自然環境や植物に興味・関心があり、農学の専門大学である東京農業大学に進学し、主に自然科学について学んできました。在学中には教員免許を取得し、教員を目指していましたが、試験に落ちてしまい、やむを得ず、園芸店に就職しました。

しかし、日々仕事をしている中で、自分の職種に疑問を抱きもう一度、自分の人生を見直していこう、と考え始めました。

以前から福祉・介護の世界にも興味があったため、狭い視野で物事を考えるのではなく、自分自身もう少し広い視野を持った人間になろう、と考えていた時、よつばホームの求人を見つけました。

介護の仕事に対して、全くの素人が仕事を行なっていけるかどうか、正直不安で一杯でしたが、職場の皆様をはじめ、入居者の方々の優しい心と明るい笑顔で、日々充実した時間を過ごさせて頂いております。

これから自分自身の更なる成長と入居者の方々が日々、楽しく充実した時間を過ごせるよう、私自身頑張っていこうと思っていますので、どうぞ宜しくお願い致します。

グループホーム2館めメンバー紹介

大原友子（ゆうこ）さん

電動車イスでゆ～らりゆらりと歩いていると
どこからともなく“友子さん”と声がかかる
両手を上げて答える・・・顔が広い
とにかく いそがしい いそがしい
たわわの編集長に パソコン 勉強会・・・
お花に 習字に 織りに 絵に 詩に ピアノを少々
大きな瞳で 身振り手振りで 文字盤で
時間を忘れちゃべっていると 気分爽快 ストレス解消
しっかり自分を持っている
とてもまじめに冗談を言う
一度会えばだれでも友達